



夢追人Ⅱ

太宰府市立太宰府中学校
学校通信8号(R3. 2. 8)

1 体育館がリニューアルしました！！

- 昨年10月から始まった体育館改修工事がようやく終わり、2月10日から使用できるようになります。
- これまで、部活動や体育の授業など、生徒の皆さんには不便をかけた。特に、バレーボール・バスケットボール部の活動は、練習場所で外部体育館を使用していたため、保護者の皆様には送迎のご協力など、多くのご支援をいただきました。ありがとうございました。
- ほんの少しですが、新しくなった本校体育館の一部を写真で紹介します。



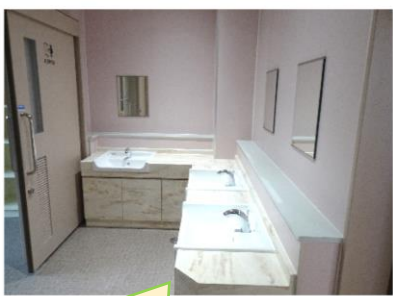
外壁もきれいに塗り替えられました



ステージも床もピカピカに光っています



入り口は一階、保健室横の渡り廊下の突き当たりになりました



トイレもリニューアル。とってもきれいな洗面台です



多目的トイレもできました



2階ギャラリーや暗幕カーテンもきれいに生まれ変わりました

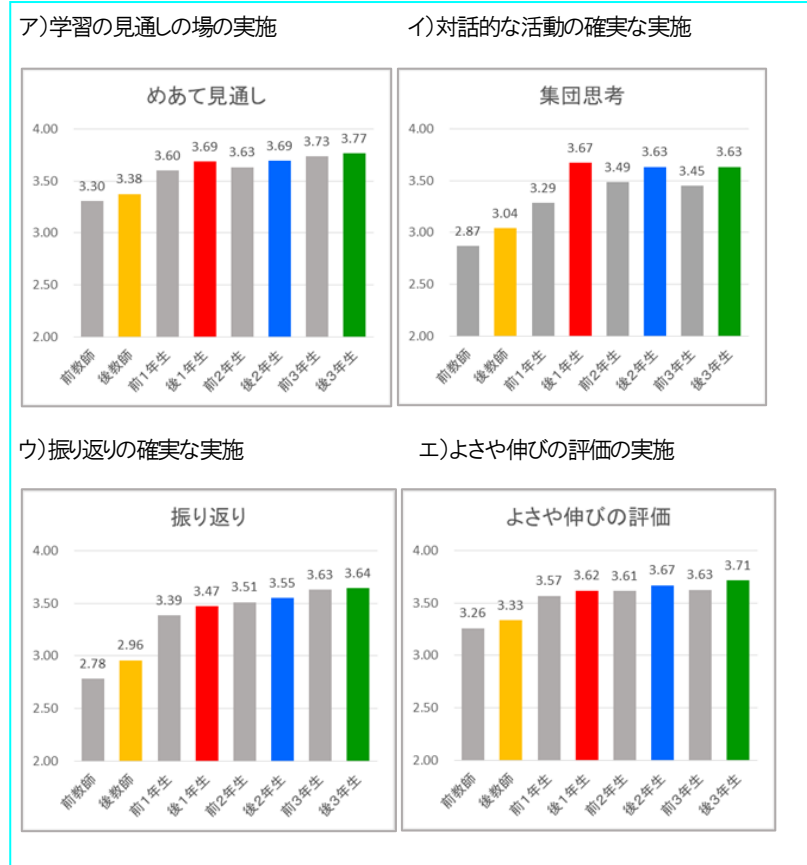
2

後期学校評価について

■1月27日(水)に「学校運営協議会(第3回)」が開催され、その中で後期の学校評価について協議がなされました。後期の学校評価は、学校教育目標である『学習が輝く、心が輝く、自分が輝く 生徒の育成』の達成を目指した評価です。そこで、今回は「学習が輝く」の伸長について説明いたします。新型コロナウイルス感染防止のため、学習内容や学習形態等に制約がある中ですが、管理職や研究推進部による授業診断を通じた授業改善について報告します。

【授業診断による授業改善】

■後期は10月・11月に全教員の授業診断を行いました。診断には校長、教頭、主幹教諭、研究主任等が参加し、放課後等で個別に協議会を行なっています。下のグラフは、授業改善の4つの視点について、教師・生徒の前期評価との比較を示しています。



■「授業診断による授業改善」については、上記ア)～エ)の4項目とも、教師及び各学年ともに前期より評価が高くなっており、授業診断による授業改善の効果は徐々に上がっている。

○「ア:学習の見通し」の実施については、評価値全体の値も4項目の中で最も高く、実践できていることが分かる。【A】

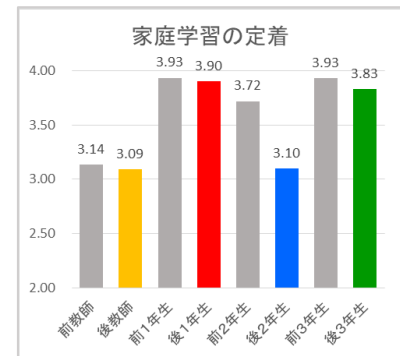
○「イ:対話的な活動」の実施については、前期に対する後期の値の伸びが大きい。これは新型コロナウイルス感染防止で後期は小集団による対話活動が対策を徹底すれば実施しやすくなったことも要因と考えられる。しかし、教師の評価が低い点で改善の必要がある。【B+】

○「ウ:振り返り」の実施については、他の項目同様に前期よりも評価値は高くなっている。しかし、4項目の中で教師・生徒ともに評価値が低く、その向上が次年度の学力向上における課題である。【B-】

○「エ:良さや伸びの評価」については、前期よりも

評価値は微増している。また、教師と生徒の評価値の乖離が最も小さい。そのため、向上の幅は小さいが取り組みの効果は確実に出ており、取り組みの継続性が求められる。【B】

【MICHIZANEノートの改善活用】



■「MICHIZANEノート」の改善 活用は、生徒の家庭学習の定着を目指しています。

○ Mノートの活用を通じた家庭学習の定着については、教師と生徒の評価値の乖離が大きい。【B-】

○ 前期よりも後期の評価値が下がっている。これは、Mノートの取り組み内容や方法について、改善が必要である。【B-】

○ 家庭学習の定着については、長期休業(冬休み等)期間の取組が十分でなく、休業前の取組が継続できていない現状がある。次年度は夏季休業前にその改善を図る取組が必要である。



◆紙面の都合で「心が輝く」「自分が輝く」の評価については掲載できておりません。別の機会にご説明したいと考えております。申し訳ありません。